

AYA支援 Web開催 第2回養成プログラム

日時：2020年 **11月29日**(日) 13~16時予定
 場所：Zoom会議室
 参加費：無料

対象：病院内でAYAがん患者専任支援チームの立ち上げの準備をしているAYAがん患者支援チーム10施設、参加のAYA支援チームは養育者を招いた多職種・多診療科からなる2名以上4名以下のメンバーでの申し込みを予定しています。参加前には、自施設での現在の活動状況および今後の課題の提出をお願いしておりますので事前にチームでの検討が可能な施設の参加に願っています。

プログラム内容
 <講演> 事前に任意の時間枠に受講いただきます
 「AYA世代がん」
 「AYA世代の心理社会的支援とピアサポート」
 「がん経験者の長期フォローアップ」
 「がん・多職種」
 「AYA支援チームの取り組みと工夫」
 <グループワーク>
 今後のヒントになるように、現職のモデル施設より立ち上げの苦労や工夫の情報提供の後に、チームの立ち上げや運用を促すためのグループワークを計画しています。

詳細・お申し込み方法
 参加ご希望の方は、施設単位でのQRコードもしくはURLからアクセスいただき、申込フォームにご所属施設名を記載の上、9月末日までお申し込みください。
<https://forms.gle/SYU1AZBETBAASU8>
 ※上記対象外をご希望の上、施設単位でお申し込みがない応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。参加可能日は10月初旬にご連絡させていただきます。
 本研究班のホームページもご覧ください <https://ayateam.jp/>



第3期がん対策推進基本計画（平成30年3月9日閣議決定）（概要）

第1 全体目標

「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す。」

①科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実 ②患者本位のがん医療の実現 ③尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

第2 分野別施策

<p>1. がん予防</p> <p>(1)がんの1次予防 (2)がんの早期発見、がん検診(2次予防)</p>	<p>2. がん医療の充実</p> <p>(1)がんゲノム医療 (2)がんの手術療法、放射線療法、薬物療法、免疫療法 (3)チーム医療 (4)がんのリハビリテーション (5)支持療法 (6)希少がん、難治性がん(それぞれのがんの特性に応じた対策) (7)小児がん、AYA(※)世代のがん、高齢者のがん(※)Adolescent and Young Adult: 思春期と若年成人 (8)病理診断 (9)がん登録 (10)医薬品・医療機器の早期開発・承認等に向けた取組</p>	<p>3. がんとの共生</p> <p>(1)がんと診断された時からの緩和ケア (2)相談支援、情報提供 (3)社会連携に基づくがん対策・がん患者支援 (4)がん患者等の就労を含めた社会的な問題 (5)ライフステージに応じたがん対策</p>
---	--	---

4. これを支える基盤の整備

(1)がん研究
(2)人材育成
(3)がん教育、普及啓発

第3 がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

<p>1. 関係者等の連携協力の更なる強化 2. 都道府県による計画の策定 3. がん患者を含めた国民の努力 4. 患者団体等との協力</p>	<p>5. 必要な財政措置の実施と予算の効率化・重点化 6. 目標の達成状況の把握 7. 基本計画の見直し</p>
---	---

健 発 0 7 3 1 第 1 号
平 成 3 0 年 7 月 3 1 日

各都道府県知事 殿

厚生労働省健康局長
(公 印 省 略)

がん診療連携拠点病院等の整備について

地域がん診療連携拠点病院

- ・ 思春期と若年成人(Adolescent and Young Adult; AYA)世代(以下「AYA世代」という。)にあるがん患者については治療、就学、就労、生殖機能等に関する状況や希望について確認し、必要に応じて、対応できる医療機関やがん相談支援センターに紹介すること



小児がん中央機関

- ・ 厚生労働大臣が指定する小児がん中央機関は拠点病院を牽引し、全国の小児がん医療の質を向上させるため、以下の役割を担うものとする。(1)小児がん及びAYA世代で発症するがんに関する相談支援の向上に関する体制整備を行うこと。また、小児がん患者・経験者の発達段階に応じた長期的な支援のあり方について検討すること。(2)小児がん及びAYA世代で発症するがんに関する情報を収集し、広く国民に提供すること

小児がん拠点病院

【役割】

- ・ 地域における小児がん医療及び支援を提供する中心施設として、また、AYA世代にあるがん患者に対しても適切に医療及び支援を提供する施設として、Ⅲの2で規定する小児がん連携病院等とも連携し、地域全体の小児・AYA世代のがん医療及び支援の質の向上に資すること。なお、AYA世代にあるがん患者とは、AYA世代で発症したがん患者とAYA世代になった小児がん患者を指す
- ・ AYA世代においては、年代によって、就学、就労等の状況や心理社会的状況が様々であることから、個々の状況に応じ、多様なニーズを踏まえた、全人的ながん医療及び支援を提供すること

【診療体制】

- ・ AYA世代にあるがん患者について、がん診療連携拠点病院等への紹介も含めた適切な医療を提供できる体制を構築していること

厚生労働省健康局長通知より抜粋
<https://www.mhlw.go.jp/content/000347080.pdf>
<https://www.mhlw.go.jp/content/000347081.pdf>

AYA世代のがんの課題



専門医(略称)	少数診療施設 53	%	中等数診療施設 104	%	多数診療施設 51	%	p
がん治療認定医	47	88.7	101	97.1	48	94.1	NS
がん薬物療法専門医	15	28.3	59	56.7	46	84.3	<0.001
脳神経外科	42	79.3	100	96.2	44	89.4	<0.005
泌尿器科	40	75.5	101	97.1	46	90.2	<0.001
整形外科	46	86.8	100	96.2	45	88.2	NS
血液	28	52.8	91	87.5	46	90.2	<0.001
婦人科腫瘍	6	11.3	58	55.8	47	92.2	<0.001
乳腺	17	32.1	83	79.8	44	86.3	<0.001
小児血液・がん	1	1.9	14	13.5	27	52.9	<0.001
放射線治療	23	43.4	90	86.5	47	92.2	<0.001
緩和医療	5	9.4	23	22.1	24	47.1	<0.001
生瘤医療	0	0	15	14.4	26	51.0	<0.001
がん看護専門	8	15.1	59	56.7	37	72.6	<0.001
がん化学療法認定看護師	42	79.3	100	96.2	47	92.2	<0.005
緩和ケア認定看護師	44	83.0	90	86.5	43	84.3	NS
病院薬剤師会がん専門薬剤師	2	3.8	12	11.5	8	15.7	NS
精神腫瘍医	2	3.8	9	8.7	15	29.4	<0.001
チャイルド・ライフスペシャリスト 等	0	0	6	5.8	10	19.6	<0.005

認定施設 など (略称)	少数診療施設 53	%	中等数診療施設 104	%	多数診療施設 51	%	p
がん治療認定医機構	44	83.0	94	90.4	48	94.1	NS
臨床腫瘍学会	22	41.5	77	74.0	44	86.3	<0.001
日本乳癌学会	31	58.5	92	88.5	45	88.2	<0.001
造血細胞移植学会認定移植施設	1	1.9	13	12.5	15	29.4	<0.001
甲状腺学会認定	2	3.8	22	21.2	20	39.2	<0.001
産婦人科学会ART登録施設	3	5.7	19	18.3	20	39.2	<0.001
図書室・学習室	28	52.8	56	53.9	24	47.1	NS
無料インターネット	16	30.2	28	26.9	14	27.5	NS

すべての病院に「フルセット」の専門家を配置することは非現実的

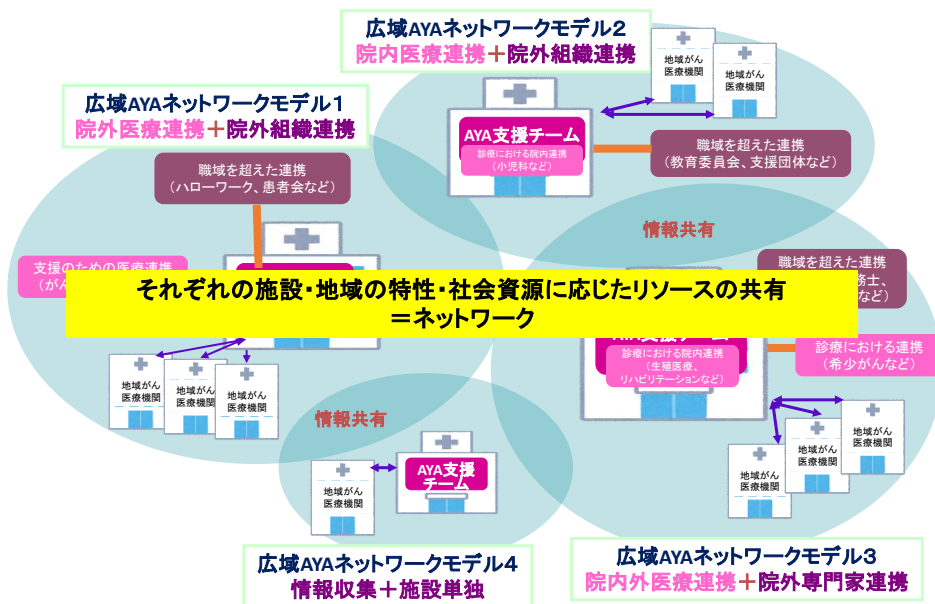
現在治療中(治療中の悩み 上位5)										
	全体(n=213)	15~19歳(n=33)	20~24歳(n=22)	25~29歳(n=33)	30~39歳(n=119)					
1位	今後の自分の将来のこと	60.9%	今後の自分の将来のこと	63.6%	今後の自分の将来のこと	72.7%	仕事のこと	63.6%	今後の自分の将来のこと	57.1%
2位	仕事のこと	44.0%	学業のこと	57.6%	仕事のこと	50.0%	今後の自分の将来のこと	63.6%	仕事のこと	47.1%
3位	経済的なこと	41.5%	体力の維持、または運動すること	45.5%	経済的なこと	45.5%	経済的なこと	48.5%	経済的なこと	43.7%
4位	診断・治療のこと	36.2%	診断・治療のこと	42.4%	診断・治療のこと	40.9%	不妊治療や生殖機能に関する問題	48.5%	家族の将来のこと	42.0%
5位	不妊治療や生殖機能に関する問題	35.3%	後遺症・合併症のこと	36.4%	後遺症・合併症のこと	31.8%	診断・治療のこと	39.4%	不妊治療や生殖機能に関する問題	36.1%
AYA発症のがん経験者(現在の悩み 上位5)										
	全体(n=132)	15~19歳(n=5)	20~24歳(n=15)	25~29歳(n=24)	30~39歳(n=88)					
1位	今後の自分の将来のこと	57.6%	今後の自分の将来のこと	80.0%	今後の自分の将来のこと	80.0%	不妊治療や生殖機能に関する問題	54.2%	今後の自分の将来のこと	53.4%
2位	不妊治療や生殖機能に関する問題	45.5%	後遺症・合併症のこと	80.0%	後遺症・合併症のこと	53.3%	今後の自分の将来のこと	54.2%	仕事のこと	43.2%
3位	仕事のこと	40.9%	学業のこと	60.0%	不妊治療や生殖機能	46.7%	後遺症・合併症のこと	50.0%	不妊治療や生殖機能	42.0%
4位	現在のこと、将来のこと 「今」は気づいていないこと 発達段階に応じたニーズ									
5位										

総合的な思春期・若年成人(AYA)世代のがん対策のあり方に関する研究班(H28-がん対策一般-005) 研究成果発表会スライドより

AYAの多様性・希少性に対応しうるがん対策とは？

- 医療機関における支援
 - 情報・相談支援窓口の「見える化」
 - アウトリーチによる支援
- 医療従事者間の協働、医療機関と社会の協働
- 医療従事者、支援者の情報と経験の共有と蓄積
- AYAがんの特性とニーズに応じた医療・社会環境の整備
 - 長期的な健康管理

【AYA 包括的ケア提供体制のイメージ】



事前の講演視聴サイト



ホーム AYA世代とは AYA支援チーム紹介 研究班メンバーと研究内容 お問い合わせ

講演

- 1 AYA世代とがん
- 2 AYA世代の心理社会的支援とピアサポート
- 3 がん経験者の長期フォローアップ
- 4 がん・生殖医療

AYA支援チームの取り組みと工夫 (モデル施設紹介)

- 1 国立国際医療研究センター病院
- 2 聖路加国際病院
- 3 国立がん研究センター中央病院
- 4 聖マリアナ医科大学病院
- 5 静岡県立静岡がんセンター
- 6 名古屋医療センター
- 7 九州がんセンター



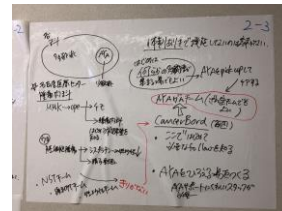
教育プログラムのねらい

全国版		地域版
施設内のAYA支援チームの養成 がん診療連携拠点病院・小児がん拠点病院のAYA支援チーム	目的 地域/広域のAYA支援ネットワークの構築	
	参加者	<ul style="list-style-type: none"> がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院、特定領域がん診療連携拠点病院の連携担当者 周辺都道府県のがん診療連携拠点病院の連携担当者 自治体担当者 院外リソース(ハローワーク、患者支援団体など)
<ul style="list-style-type: none"> AYA世代のがんの実態と課題 がん・生殖連携 長期フォローアップ ピアサポート 	講義内容	<ul style="list-style-type: none"> がん・生殖連携 教育支援、就労支援 患者支援団体へのつなぎ方 行政の取り組み etc.
<ul style="list-style-type: none"> 施設内でのチームづくり 院外連携、広域連携の視座と問題点の共有 	グループワークのねらい	<ul style="list-style-type: none"> 院外リソースの把握 連携の問題点の洗い出し 顔の見える連携の構築

11

初年度:パイロット教育プログラム

(対象: 分担研究施設AYA支援チーム)



2018/6/29 13:00-17:00@NCGM

【事前アンケート】

- ・現状評価、課題抽出、目標設定

【座学】

- ・AYAがん実態調査からみた次の課題
- ・長期フォローアップの体制の現状と課題
- ・がん生殖医療のコツと課題
- ・ピアサポートの現状と課題
- ・地域からのサポートの可能性
- ・情報提供と相談支援における課題

【グループワーク】

- ・施設・地域の取り組み: 課題の整理、ブレインストーミング

【事後課題(2カ月後)】

- ・教育プログラム後の取り組み、課題抽出、目標の再設定

パイロット教育プログラムの効果 班員施設の達成目標の変化

Before

After

大枠の体制に関する課題	大枠の体制に関する課題
AYA支援チームの立ち上げ(4)	AYA支援チームの立ち上げ(3) どのように選定するか、初回ミーティングで何を話すか
AYAがん患者の捕捉(4)	AYAがん患者の捕捉(4) 誰が、どのように
AYAチームの院内周知(4)	AYAチームの院内周知(6) ポスター、院内報、HP、院内勉強会
AYA支援に関する普及啓発(3)	AYA支援に関する普及啓発(3)
具体的な課題	具体的な課題
スクリーニング方法の整備(4)	AYA支援チームの拡充(2) 人数の追加、職種の追加
生殖医療ネットワークの整備(3)	スクリーニング方法の整備(2) 具体的な項目の検討、スクリーニング方法の改良
学校との連携体制の整備(2)	生殖医療ネットワークの整備(2)
病棟、病床等の環境整備(1)	学校との連携体制の整備(2)
患者会の整備(1)	病棟、病床等の環境整備(1)
	患者会の整備(1)
	他院との連携の整備(1)、院外リソースの活用(1)
	患者への広報(2)、AYAカフェの開催(1)

新たな具体的な目標の設定
より発展的な目標の設定

教育プログラムで扱ったテーマについて目標がより明確化

施設名：

国立国際医療研究センター病院

班会議前（2018年6月）

班会議後（2018年8月）

話し合いをもちったメンバー
医師（腫瘍内科、乳腺科、小児科）
社会福祉士

	←急	緊急度	後→	←急	緊急度	後→
高	半年以内に取り組むもの	● 乳癌患者、C S S のがん・生殖のシステム作り	● AYAがん患者の捕捉システム(苦痛のスクリーニングとの連動)	1-2年のあいだに取り組むもの	● 窓口となる看護師の確保	● 長期フォローアップのプログラム作り
重要度	↑	↑	↑	↑	↑	↑
低	↓	↓	↓	↓	↓	↓
低	● 院内AYA支援リソースの紹介（マギーズ東京、ピアサポート）	● 院外AYA支援リソースとの連携（双方向での取り組みの可能性を検討）				

具体的な取り組み：

- ・婦人科医とのミーティング
- ・苦痛のスクリーニングと連動したAYAがん患者の捕捉システムについて、緩和医療チーム等関連部署との相談開始

具体的な取り組み：

- ・相談支援センターの患者向けパンフレットへにAYA支援チームを掲載
- ・院内カンファレンス（「リトリートカンファレンス」）での啓発（12月）
- ・院内がん・生殖連携の開始（乳腺⇒小児科に拡大）

AYA支援チームの課題

- ・患者の捕捉、ニーズの捕捉とトリアージ
- ・がん患者、AYA患者に関する認識の不足

施設名：

国立国際医療研究センター病院

半年後（2019年2月）

1年後（2019年6月）

未着

		緊急度				
		←急		後→		
↑ 高 重要度	↓ 低	半年以内に取組むもの		1-2年のあいだに取組むもの		
		<ul style="list-style-type: none"> 電子カルテ上でのチームの情報共有（電子カルテ上で補足・介入状況を共有できるようにする） スクリーニングシートの導入の検討（患者用） 現場のスタッフへの啓発活動（キャンサーボード委員会での活動状況報告等） 院内掲示用のポスターの作成 		<ul style="list-style-type: none"> 1-2年のあいだに取組むもの 外来患者の捕捉 相談窓口（がん相談支援センター）の見える化 地域連携の強化（がん・生殖、CAYA世代がん経験者の長期的な健康管理など） 		
		<ul style="list-style-type: none"> 地域の医療機関への支援活動の広報（「仕事とお金の相談会」など） 				

AYA支援チームの課題

- ・電子カルテから拾える情報の不足（現場の認識の不足?）
- ・効果的なタイミングで情報提供や支援につなげる

施設名：

国立国際医療研究センター病院

1年半後（2020年1月）

2年後（2020年8月）

		緊急度				
		←急		後→		
↑ 高 重要度	↓ 低	半年以内に取組むもの		1-2年のあいだに取組むもの		
		<ul style="list-style-type: none"> 電子カルテ上でのチームの情報共有（電子カルテ上で補足・介入状況を共有できるようにする） スクリーニングシートの導入の検討（患者用） 現場のスタッフへの啓発活動（キャンサーボード委員会での活動状況報告等） 院内掲示用のポスターの作成 		<ul style="list-style-type: none"> 外来患者の捕捉 相談窓口（がん相談支援センター）の見える化 地域連携の強化（がん・生殖、CAYA世代がん経験者の長期的な健康管理など） 		
		<ul style="list-style-type: none"> 地域の医療機関への支援活動の広報（「仕事とお金の相談会」など） 				

		緊急度				
		←急		後→		
↑ 高 重要度	↓ 低	半年以内に取組むもの		1-2年のあいだに取組むもの		
		<ul style="list-style-type: none"> 外来患者の捕捉 相談窓口（がん相談支援センター）の見える化 CAYA世代がん経験者の長期的な健康管理体制の構築（自施設、他施設からのCCSの受け入れ） 持続可能なAYA支援チームの体制の確立 		<ul style="list-style-type: none"> AYA世代発症がん患者のレジストリの作成 		
				<ul style="list-style-type: none"> 非がん患者への対象の拡大 		

具体的な取り組み：

AYA支援チームの課題

- ・電子カルテから拾える情報の不足（現場の認識の不足?）
- ・効果的なタイミングで情報提供や支援につなげる

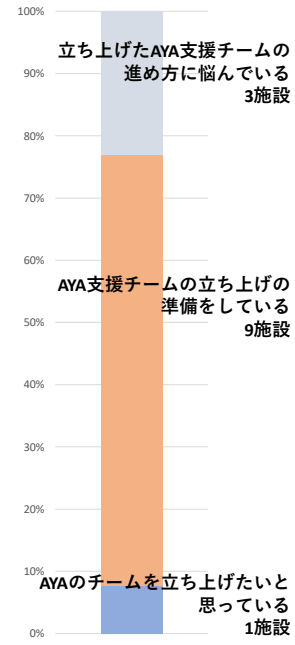
AYA支援チームの課題

モデル支援チームによる 地域版ネットワーク構築プログラム



参加施設

東北	秋田赤十字病院
東北	東北大学病院
関東甲信越	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
関東甲信越	独立行政法人国立病院機構東京医療センター
関東甲信越	慶應義塾大学病院
東海	静岡県立こども病院
東海	社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷三方原病院
東海	三重大学医学部附属病院
近畿	市立豊中病院
近畿	兵庫医科大学病院
近畿	姫路赤十字病院
近畿	兵庫県立がんセンター
中四国	島根大学
九州	長崎大学病院



プログラム予定

11月29日（日）13時～16時

開場： 30分前

①オープニング

参加施設実態紹介と視聴講演紹介と質問への回答

②班員をシンポジストとしたシンポジウム（司会：清水千佳子）

③45分：グループワーク（司会：吉田沙蘭）

⑤45分：グループワークまとめ（グループで発表）

⑥20分：事前課題を施設ごとで見直し（終了後にメール提出）

⑦20分：まとめ（清水）

ファシリテーターのご協力をいただく先生（敬称略）

一戸辰夫（広島大学病院）

堀部敬三（名古屋医療センター）

前田尚子（名古屋医療センター）

石田裕二（静岡県立がんセンター）

津村明美（静岡県立がんセンター）

鈴木直（聖マリアンナ医科大学）

清谷知賀子（成育医療研究センター）

小澤美和（聖路加国際病院）

鈴木達也（国立がん研究センター）

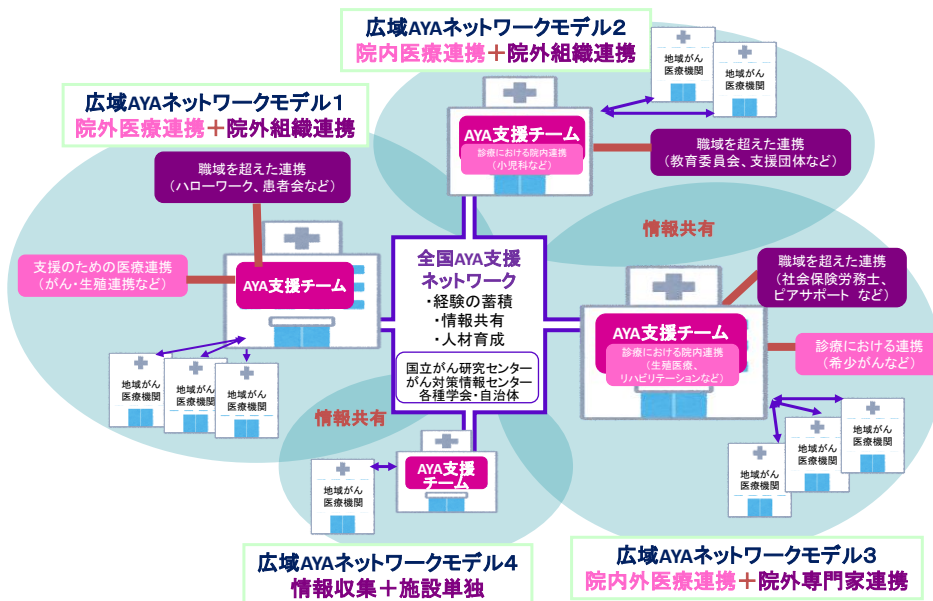
堀口沙希（国立がん研究センター）

森文子（国立がん研究センター）

前田美穂（日本医科大学/日本歯科大学）

桜井なおみ（がんセンター・ソリューションズ株式会社）

【AYA包括的ケア提供体制のイメージ】



私たちのビジョン

- がんと共に生きる若者を応援できる医療と社会

私たちの取り組む課題

- AYA世代でがんを経験した人たち、AYA世代のがん患者の医療や支援に関わる人たちとともに、AYA世代のがんに関する学術活動、教育活動、社会啓発及び人材育成を行います。

AYA研×東北がんプロ 共催

【第6回】支援者としてできることを学ぶ
AYA教育Webセミナー

がん体験はAYA世代で生きることと密かす体験です。そんな中でも、柔軟性をもちAYA世代は、新しい力を身に付け、自分らしく生きる歩みを進めることはあります。

テーマ：『自分らしく生きる力』～私の力と周りの力～

参加費無料 【日時】*** 2021年1月30日(土) 13:00～16:45
定員400名程度 【会場】*** WEB開催
(無料会費制) 【対象】*** 医療従事者だけでなく、広く一般の方も対象としています

第1部 教育講演
13:10～14:10 (講演60分 質疑10分)
1. AYA世代ががん患者へ中心療養支援
～出来る力を考える関わりを再確認して～
14:15～15:15 (講演60分 質疑10分)
2. AYA世代ががん患者の生きる力を考える今と
～臨床現場で医療者としてできること～

第2部 経験者による講演対話
15:20～16:15 「AYA世代の体験談から、“自分らしく生きること”を考える」

16:15～16:45 総合討議

申込先: <https://aya-ken.jp/event/>
申込先: <https://www.kanai.or.jp/>

AYA研事務局 E-mail: office@aya-ken.jp

東北がんセンターがん医療推進センター 一般社団法人AYAがんの医療と支援のあり方研究会 共催

AYA oncology alliance **第3回 AYA世代がんサポート研修会**

2021.2.6SAT → 7sun

目的: AYA世代がん患者の支援ニーズに基づき、自分のできることを学び、支援の窓口を知る

対象: 医師、看護師、薬剤師、心理士、臨床PT/OT、ピアなどのAYA支援を実施している方

先着60名まで

開催概要

11月9日(月)～30日(月) AYA研ホームページ発表 研修会への参加は完全無償です。

2021年2月6日(土) 10:00～17:20 (予定)
2021年2月7日(日) 9:00～16:00 (予定)

会場 Web開催(ZOOM)

お申し込み料 研修費 18,000円 研修費 18,000円 (2日費)

申し込み/お問い合わせ

お申し込みフォームはこちら
⇒ <https://aya-ken.jp/event/workshop20210206>
お問い合わせ先: AYA研事務局 E-mail: office@aya-ken.jp

主催 一般社団法人 AYAがんの医療と支援のあり方研究会

AYA

がつくる
新しい医療と支援のかたち

第3回 AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会
2021/3/20 SAT * 21 SUN

会場 千代子 (国立がん研究センター)

AYA 創造する未来 aya-ken.jp